

校会
等B
堂高
岩谷
吹奏
1968.10.10(木)発行
第1号

岩高吹奏楽部 OB会報



岩高吹奏楽部OB会報

吹奏楽部OB会創立す

会長に本庄和也さん

・会員相互の親睦と共栄を図り、母校吹奏楽部の発展に資する。これを目的とした「岩高堂高等学校吹奏楽部OB会」の設立総会は八月十五日母校音楽室に於て行われ、会則制定、役員選挙など一応の議事日程を終了。ここに正式に発足いたしました。

修正して会則が制定されました。続く役員選挙では会長本庄和也、副会長菊地憲一、後藤秀実、会計遠藤一夫の各氏を選出。この後本庄会長の挨拶があり、①顧問②機関誌③母校吹奏楽部後援④その他について話し合われました。①では本校吹奏楽部顧問の高橋勲先生、同現顧問の伊勢豊先生をOB会顧問として委嘱すること、満場一致で決めました。高橋先生は今年の四月黒沢尻北高校に転任され、現在同校吹奏楽部の顧問でもあり、伊勢先生は高橋先生の後を受けて大迫高校より転任され、現在同校吹奏楽部OB会の顧問を引き受けておられます。

④については、今月号のタイプ印刷による機関誌を発行すること、その編集委員を菊地憲一、遠藤一夫、菊池秀治の各氏の他に現役員を教名依頼すること、決めました。③については、八月二十五日の地区大会、九月八日の県大会のために仙台の楽器店からヤマハレントールを利用して、八月二十三、四、五日、九月六、七、八日にクラリネット三本ずつを借用すること、しました。費用は一本につき一日五十円で、その手続きを一切、後藤秀実、後藤幸市両君に任せることを決めました。

総会終了後、黒北からおいで下さいました高橋先生やオプザトバトとして出席した現役員教名を交えた親睦交流会があり、万ごやかな小ん圓気のうちに散会しました。

OB会設立にあたり

会長 本庄和也

皆様の力をかりたいと思っております。皆様いかにお過ごしでしょうか。

このたびのOB会設立は、我々の母校を思う、そして親しむ最も人間らしい自然の志より生まれたいものであり、私はこの喜びの一瞬を永遠のものとする為に一生懸命やらなければならぬと今、固く心に誓ったのでございます。

私はOB会員の皆様の御指示によりこの名譽あるOB会会長の座に着くことができません。私はこの大役を大成させるためにまずは我々会員同志の連絡を大にしていきたいと思ふのであります。

同じ釜の飯を食べた仲間として友として今後、互いの生き方、進み方に少しでもプラスに成るものを積み重ねていきたいと思ひます。我々は年と共に社会に對す

る重要度も増し、それと共に心のやすらぎを求めたく成つてまいります。岩高吹奏楽部OB会はこの互いの心を癒す最良のオアシスと成る様、我々会員は望まなければ成りません。このオアシスを通じてお互いの心の交流を計り、そして我々のオアシスに又新しい生命力と個性を持つたかわいらしい後輩を迎え入れる為、我々は常に努力していかなければなりません。このOB会設立までには多大の勞苦と時間を費し、又有志のすばらしい献身が有りました。今後もこれらの献身的ゆきによつてこの会がrippに成つていく事と思ひます。我々はこの事実をはっきり心に銘記してこれからのOB会発展に協力していかなければ成りま

せん。設立総会の時は、高橋勉先生を交え、岩高吹奏楽部への協力体制を固めること、会員同志の融合をどのようにして

図つていくかなど今後のOB会の生き方を検討しました。総会の熱がこもつていく内に卒業生として我々が強く感じ始めていた母校への距離感

がすーと無くなり恰も在学中であるかの様な錯覚さえ覚えたのであります。皆様、岩高は心の母校です。そして吹奏楽は我々の生きがいでも有りました。この生きがいをも今こそ新しい岩高吹奏楽部と岩高吹奏楽部OB会とで手を握り合

いなから築き上げていきたいと思ふのです。それでは会員の皆様、互いの幸福を祈つて、の幸福を祈る岩高吹奏楽部へ御協力をお願い申し上げます。

を納入して下さい。納付書により会計係へ期限までにお願ひします。

設立までの過程

設立総会までの経過報告から

昭和四十一年度卒業生が卒業間近の昭和四十二年二月三日、三月頃、岩高吹奏楽部OB会設立について種々語られたのですが、ついに正式設立は成されませんでした。

この三月からスーツとハ九月頃までまたたく間に過ぎてしまい、そして十月の才三回岩高定期演奏会の際、OBプログラムの作成の際、OBの方々の出場をどうするかとの問題が出て、正式なOB会は無かつたのですが、ここで初めて、それも無断で「岩高吹奏楽部OB会」の名を使用しました。この演奏会は一応成功のうち、終りにこののちOB会設立についての話し合いが多く、持たれるようになり、また、OB会設立については、十二

月、そして翌一月に持たれました。特に一月三日には現役三年OBなど十数名で話し合いが持たれ、会則の性格や設立までの活動、運営など広い範囲にわたって話し合われました。

さらに一月二十日には、現役三年生名程での話し合いの後、正式に高橋勲先生のところへOB会設立について持ち出したのですが、なにしろこの頃には現役三年にとつて卒業のため、五路のため、忙しく、事實上三月まで持つこととなり、その間に出来るだけ金則作成を急いで、一志の形でもとのえることになりました。三月は会則の作成が意外と進まず、現役三年は卒業してボツリ、ボツリと散りて行き、それととも住所録の作成が著しく遅れてしまひ、早期設

立総会開催は困難となりました。これがさらに高橋勲先生の転任で完全に狂ってしまった。

岩高には新しく伊勢置先生が転任され、四月二日に先生の前へ行き、OB会設立について相談致しました。この三日前の三月三十日にOB会会則原案が一志の形をととのえて、金則的形態などについて金盛先生にお願いして目を通していた。だき、原案としての会則はこの時出来た次第です。その後江利には、りるはわずか二名を残すだけとなり、準備不十分から五月五日に予定していた設立総会を八月十五日に開くことに申し合わせました。時間は長いようで短く、住所録の作成が七月までかかり、あわてた形でしたが、八月三日に皆さんのお手もとに、案内状並びに会則原案と名簿、投票用紙をお送りすることが出来、八月十五日に皆さんのお集まりをいただいて、設立総会を開くことが出来ました。

所 感

伊勢 豊

岩高吹奏楽部OB会の創立おめでとうございませう。今、岩高吹奏楽部は一つの軋機にさしかかっているのではないかと思ひます。学校でも能う限りの援助を惜しまない雰囲気になつておられますし、それが例えば楽器の充実に惜し気もなく（？）五十万円も七十万円も力本を出すところにもよく感ぜられます。

これは一つには同窓生諸君の在学中に築いた伝統や、高橋勲先生の苦勞が、いま報われつつあるということであり、私どもも在校部員はその恩恵に感謝しております。今年のコンクールは失敗しました。が、捲土重来を期して頑張りつております。母校にお出での節は、ア多巴イスなどお願いしたいと思つております。私自身浅学非才の身ですが、能う限り

一諸に勉強して行きたいと思つております。OB諸君の尚一層の御支援をお願いすると共に、OB会も着実に発展されることをいのつてやみませう。

岩高プラスOB会
発足に寄せて

高橋 勲

プラスには素人同様であつた僕が、所謂管合奏について色々勉強出来たのは、岩高のバンドと共にであつた。合宿で同じ釜の飯を喰べ、スコアで同じセクシオンを追い、コンクールや、岩高音楽会の為に苦勞を共にしたことは合奏する者として、後々にどれ程プラスになつたか、図り知れない。今回のOB会発足が、その当時の速中とあれば喜びも又一つ入つては、プラスの演奏にピツキよ、ラングストンよ、われで久しいが、楽器の構造や性能、演奏法の著しい進歩によつて、そのようなことは基

本格的な技術として演奏以前の問題になつた。今やプラスはソルフェージュを小まめた。音楽性に溢れる表現力と、又ケルとが大きく要求されるようになった。幸いOB諸君は異なる地域、地域に於て、新鮮な感覚のプラスに触れる機会が多いのだから、要点を取捨選択して母校プラスの為にそれらをどどん環元する勞を取つて貰いたいと思ふ。終りに今回のOB会発足を機に改めて在勤中の専言を謝すると共に、今後の岩高プラスの発展とOB会の隆盛を祈念します。（現黒沢尻北高校教諭）

ヤマハレインタール中止

先の総会で決定さ出ておりました、ヤマハレインタールのクオリネット借用は、楽器の在庫が無くなり、とうして御了行できません。この件で奔走し承願いたします。この件で奔走して頂いた両後藤君、どうもご苦勞様でした。

OB会の発展を願う

及川民男

創立五十周年を記念する年に岩高吹奏楽部OB会が設立されましたことは私達部員にとっても大変嬉しく思います。

二年程前から計画されてきたOB会が、今年の八月十五日にOBの方々の努力により結成され、予算、その他の面においていろいろの援助していただくことに對しても大変感謝いたします。

岩高吹奏楽部は伝統として浅いけれども発足してから大部年数がたつておりますので、やはりOB会があつても当然だと思ひます。それにバンドという固いきずなで結ばれてゐるのは在学中だけ、というのではなく卒業してもバンドという一つの心の通うもので結ばれていたいと思ふのは経験者ならずとも願ふことではないかと思ひます。それゆゑOB会の発足は非常に意

義深いものと思ひます。

私達吹奏楽部は、今までも指導していただいた高橋先生が黒北に転任され、今年は伊勢先生の指揮で地区予選を迎えました。その結果、県大会出場は出来ませんでした。それまでの努力は決して無駄ではなかつたと思ひます。楽器が少くないこと、専向の指導者へ指揮者がいないこと、練習場所に通じないことなど、大きな問題があります。私

会則・住所録の訂正

岩高吹奏楽部OB会会則は八月十五日の設立總會で決めた。先に皆さんのお手もとに配付致しました。原案の一部が次のように変わりましたので訂正していただきます。オ三條二項会報・機関誌・名簿の発行、オ八條本会は總會の推薦により、補オ十條八條總會は会長がこれを招集する。補オ十九條總會に於ける議長は議事に先たつて選出される。原案オ十八條からオ二十七條はオ二十條からオ三

達はそれらを克服し秋のオ四回岩高定期演奏会は是非でも成功させたいと思ひます。OBの方々には御多忙中とは存じますが、今後とも温かい御指援助と御批判をお願ひ致します。最後に今後の吹奏楽部の躍進とOB会の発展を期待致します。

十九條に引かれる、オ二十六條本会会員は、オすみやかに會長に通知しなげればならない。オ二十九條本会則は昭和四十四年八月十五日より施行する。又、住所録の次の部分を訂正致します。

尚、住所、氏名等に異動が生じた時は直ぐに會長にその旨連絡して下さい。

吹奏楽コンクール 肥後地区予選南かる

今年度の課題曲は塚
永哲夫作曲「吹奏楽の
ための幻想曲」移り気
な五度のムードで

八月二十五日、恒例の全
日本東北吹奏楽コンクール
岩手県大会の地区予選が水
沢市民体育文化会で開催さ
れ、高校の部Bクラスは七
校が県大会の出場権をかけ
て争いました。
岩谷堂高校はBクラスへ
三十名)に出席しました。

岩高の随意曲はムソルグスキ
「作曲」ボリスゴドノフより
「載冠式」の場面です。
肥後地区は県内一の激戦地
区で、県大会出場校は七校の
うち、必ずか四校と決められ
ており、今年度は肥後地区七校
とも曾前にも量的にも著しい
向上がみられ、激しい争いと

なりました。その結果、岩高
は健斗をなしく才五位にとど
まり、県大会の出場権は得ら
れませんでした。

審査員の批評では中間部が
弱いこと、音が不正確なこと
へここれは特に楽器によるもの
で音が不安定なこと、その反
面音楽的には良いこと、技術
的な面もあまりまずくなく、
たことなどが上げられました。
それにしては審査員二名のち
ち一方は岩高を四位校に点を
つけるなど統一重の感ではし
た。

設立総会 会計報告

※ 収入の部

OB会費	500 × 11 =	5,500
当日会費		4,800
高橋先生より		500
計		10,600

→ 総会費用 5,100円

※ 支出の部

代物子	3,500
食み	850
飲み	583
飲菓茶	200
計	5,133

の結果 33円の赤字
の550高致し。赤字
に550の赤字を
こ費に以上

B編入しました。
0のみです。
きのみです。
にのみです。
字のみです。
字のみです。
赤のみです。
赤のみです。

(会計係)

編成は、ピッコロ・フルー
トニ、クラリネット九、アル
トサク、フリューゲル、テナーサク
ス、トランペット三、メロ
ホン三、ユーホニウム二、ト
ロンボーン三、バス二、パー
カッション四の計三十名、指
揮は伊勢野先生でした。
意曲は「バレエ」は木沢高で
からバツカスの行進曲は「レ
ザン」は本沢農高で随意曲は「レ
シエンド」でした。豊林、
前沢と共に県大会出場します。

岩高吹奏楽部 新役員決まる

岩谷堂高校吹奏楽部は、及川民男部長、後藤良光副部長、小松原明夫マネージャー、高橋繁喜会計の役員が退陣、二年生を中心とした新役員が九月十四日決められました。それにより、今回はマネージャーを廃して副部長を二人制とし、小野田和夫、菊池修司の両君、会計は高橋幸次郎君が選ばれ

ました。なお、今度の役員改選は選挙を行なわず、現部長の

指名によって決められ、この意味をよく理解して新役員を心に岩高吹奏楽部をさらに高めて貰いたいと思います。この三年生の意向によるものと思われ、この意味をよく理解して新役員を心に岩高吹奏楽部をさらに高めて貰いたいと思います。

もつとこうせよ

岩谷堂高校生徒会は去る九月二十八日臨時総会を開

こがは高野会長へ四十二年度卒業生の時、不振の岩高に新しい校風を、と呼びかけたもの。その後

気魄を・誠意を・前進を

きガモットにフいで密議し、これに「気魄を、誠意を、前進を」と決めた。

なかなかならぬこの日よ、うやく決まりました。新たな心で新たな栄光を岩谷堂高校に取り返して下さい。

生徒会役員も

決まる

九月三十日を以て任期満了となる岩谷堂高校生徒会の役員改選は、九月十六日投票が行なわれ、次の役員が選ばれた。会長は遠藤康彦、副会長は刀根まき子、千葉和子、会計長は八幡久美子、書記長は及川今子、図書は高橋春樹、販売は高野洋子、保健は及川美恵子、放送は高橋忠美子、新劇は八重程彦、文化は小沢綾子、体育は伊藤修、会長の遠藤言は青藤明郎君を四十票差で選んで当選したもので、会計長、書記長、放送は信任投票によるものです。

定演十二月初旬か

岩谷堂高校吹奏楽部が四回定期演奏会は十一月に入ってからに、なな模様でまた日時が決まらぬ、といませんが十一月二日、或いは九日のいずれかに行なわれ、るものと思われ、ます。

吹奏楽コンクール 県大会終る

『全体にレベル向上』

全日本東北吹奏楽コンクール岩手県大会は九月八日行なわれ各クラスの新位が次のように決まりました。カッコー内は随意曲です。

▽高校の部Cクラス①黒北へポリホニック組曲②花泉③盛岡▽高校の部Bクラス①黒エールフルト博物館の情景より②専大北上③釜工▽高校の部Aクラス①釜石南へ序曲ロスマの謝肉祭より②黒北③盛工、今大会を主催した朝日新聞社は、『全体にレベル向上』という見出しで、次のように報じています。

八、十五日に北上の市民会館ホールで開催された盛岡に終った。ことしは二年後の岩手国体に刺激されて参加校がぐんとふえ本県吹奏楽の底辺の広がりを見せた。審査員七氏の感想は『全体にレベル向上した』と好評。『中学、高校と

も全国大会への道が開けてる。Aクラスの出場が少なかつたのは、とくに高校の場合レベルが高かつただけに惜しまれる。中学ではAクラス又出場校がたつた。一般の不参加と孤獨な岩手ス、存在は今後に待つとしAクラスと見受けられる。バンドも少なくなかつた。『部員が足りない』、『楽器が足りない』、『事情もわるがるが、審査員は口をそろえて、『金のないのはみな同じ。工夫して統一ある楽器をそろえればより効果がある。』と、かくこの上はより高いクラスで演奏する意欲がほしい』といつていた。

演奏技術面で指摘されたおもな点は――

▽高校の選曲も演奏もよく昨年よりぐんと上達しているがさらに楽符を忠実に解釈してお互いの楽器の音色に合わせ、音楽的なチームワークを作るべきだとの批評が不なりあつた。また地

域別では北上、釜石、地、区がとび抜けていた。こは互いに刺激して、起し、あうたぬとみられ、今後は他校との交歓演奏もやってみてはと提案する意見もあつた。以上、長々と拝借させていたが、長々としたが、何といつても岩手が出場できなかつたことは残念です。来年に期待したいものです。

編集手帳

私事で恐縮ですが、総会の後入院致しまして九月二十一日、一ヶ月ぶりにおかげ様で退院致しましたのでお知らせ致します。会報の発行が遅れるなど御迷惑をおかけしましたことをお詫び致します。

次号は第四回の定期演奏会の日程が決まり次第お知らせしたいと思ひます。

取場のこと、音楽会に行つたことなどのお便りを下さいます。この会を盛り上げるものには、(係)